

決算審査意見書

- 1 審査の対象 平成20年度西原町水道事業会計決算
- 2 審査期間 平成21年7月8日～同10日(3日間)
- 3 審査の基本方針

審査に付された水道事業会計については、地方公営企業法、同施行令及び同施行規則の規定に従い決算報告書、損益計算書、貸借対照表及び剰余金計算書(利益剰余金及び資本剰余金)が適正に表示されているかどうか、また、事業の運営に当たっては地方公営企業法第3条の規定の趣旨に従い、常に効率的な運営と公共性の確保に留意されているかどうか重点をおいて審査した。

- 4 審査の結果

決算報告書等は、関係法令の諸規定に基づいて作成されており、収益及び費用の額、資産及び負債の額、利益剰余金、資本剰余金の額は正確であり、当該水道事業の損益、資産、負債及び資本の状況を正しく示しており、適正であると認められた。

- 5 審査の概要及び意見

- (1) 給水人口、配水量等の状況

本年度末の行政人口は34,740人、給水人口は34,729人でともに前年度の100.2%になっている。

給水世帯数は12,874世帯で前年度の101.5%となり、給水人口の増加率より1.3ポイントの増加になっている。

なお、給水1世帯当りの人口は2.69人で前年度の98.5%に減少している。

給水栓数は9,249件で、前年度の100.4%の伸びに止まっている。

配水量は4,292,604m³で、前年度より100.8%増加している。

しかし有収水量は4,080,035m³で、前年度より減少している。

人口、配水量等の状況表

区 分	人口、配水量等	人数等	前年度比
21年3月現在	行政人口	34,740人	100.2%
21年3月現在	給水人口	34,729人	100.2%
21年3月現在	給水世帯数	12,874人	101.5%
21年3月現在	給水1世帯人口	2.69人	98.5%
21年3月現在	給水柱数	9,249件	100.4%
20年度	配水量	4,292,604m ³	100.8%
20年度	有収水量	4,083,035m ³	99.3%

(2) 営業収益、営業費用等の状況

本年度の営業収益、営業費用等は次の表のとおりで水道事業の収益は配水量の若干の増加があったが、有収水量の減少等により営業収益は807,231千円となり、前年度より減少している。

営業収益のうち水道事業の主たる収益である給水収益は794,051千円で前年度の798,508千円より4,457千円の減少になっている。

なお、営業用の使用水量は増加したが、家庭用他の使用水量が減少したこと等により、全使用水量は前年度の99.3%になっている。給水収益は前年度の99.4%に減少している。

営業費用が722,144千円で前年度より31,730千円減少している。

営業費用の減少の主な理由は配水及び給水費の減少、資産減耗費の減少による。

なお、営業外費用は30,549千円で前年度より減少しているが、これは支払利息が30,549千円となり前年度より3,122千円減少していることによるものである。

この結果、営業利益は85,087千円で、前年度より20,775千円増加し、経常利益も55,511千円で前年度より28,717千円増加になっている。

なお、純利益は55,405千円で前年度より28,787千円増加になっている。

また、営業利益率は10.5%と前年度より上昇し、経常利益率も6.86%と前年度より上昇している。

営業収益及び営業費用等の状況表

(単位：千円、%)

区 分		20年度	19年度	増減額
営業収益	1		818,186	△10,955
内 給水収益		807,231	798,508	△4,457
内 その他の収益		794,051	19,678	△6,498
		13,180		
営業外収益	2	973	745	228
経常収益 ①+②	③	808,204	818,931	△10,727
営業費用	④	722,144	753,874	△31,730
営業外費用	⑤	30,549	38,263	△7,714
経常費用 ④+⑤	⑥	752,693	792,137	△39,444
営業利益 ①-④	⑦	85,087	64,312	20,775
経常利益 ③-⑥	⑧	55,511	26,794	28,717
特別損益	⑨	△106	△176	70
純利益 ⑧-⑨	⑩	55,405	26,618	28,787
営業利益率	⑪	10.5	7.86	-
経常利益率	⑫	6.86	3.27	-

参考 有収水量 1m³当り収益及び費用の状況表

(単位：円)

1m ³ 当り単価		20年度	19年度	増減額
供給単価	1	194.48	194.33	0.15
給水原価	2	184.35	192.78	△8.43
給水利益(1-2)	3	10.13	1.55	8.58

※ 供給単価 = 給水収益 ÷ 有収水量

※ 給水原価 = 経常費用 ÷ 有収水量

(3) 配水量、有収水量及び有収率の状況

配水量は 4,292,604 m³で、前年度より 35,611 m³増加しているが、有収水量は有収率が 95.12%に下降したことにより前年度より 26,085 m³減少し 4,083,035 m³になっている。

なお、本年度の有収率は 95.12%で前年度の 96.53%より 1.4ポイントも下降している。

配水量等の状況表

(単位 : m³、%)

区分	20年度	19年度	増減量
配水量	4,292,604	4,256,993	35,611
有収水量	4,083,035	4,109,120	△26,085
有収率	95.12	96.53	△1.4ポイント

(4) 用途別使用水量の状況

用途別使用水量は、次のとおりになっている。

① 家庭用

家庭用の使用水量は 2,768,356 m³で前年度の 99.03%に減少している。

また、構成比も 67.8%で前年度 68.0%より減少している。

② 営業用

営業用の使用水量は 879,213 m³で前年度の 100.2%に増加している。

③ 団体用

団体用の使用水量は 435,303 m³で前年度の 100%でほぼ変化はない。

また、構成比も 10.7%で前年度 10.6%とほぼ変化はない。

なお、団体用の使用水量は平成 16年度以降前年まで毎年度減少傾向が続いていた

が、今年度はわずかではあるが増加している。

特に大口需要者である琉球大学の使用水量は304.558 m³で前年度の使用水量の100.9%になっている。

用途別使用水量表

(単位：m³、%)

用途別	20年度	構成比	19年度	構成比	対前年度比	
家庭用	2,768,356	67.8	2,795,370	68.0	99.0	
営業用	879,213	21.5	877,708	21.4	100.2	
団 体 用	琉球大学	304,558	7.5	301,619	7.3	101.0
	内 医学部	217,722	5.3	201,756	4.9	107.9
	その他	130,745	3.2	133,630	3.3	97.8
	計	435,303	10.7	435,249	10.6	100.0
臨時用	163	-	793	-	-	
合 計	4,083,035	100.0	4,109,120	100.0	99.4	

※ 営業用には「営業用兼住宅」を含む。

(5) 分岐点別の配水量、有収率等の状況

安室分岐点は、配水量、有収水量とも増加しているが、他の2分岐点は配水量、有収水量とも減少している。

有収率で安室分岐点が91.61%と、前年度より4.17ポイントも下降している。

内間分岐点は、95.45%と前年度の1.1ポイントの上昇に引続き本年度は1.0%上昇している。

徳佐田分岐点は96.69%で前年度より1.1ポイントも下降している。

安室分岐点について、有収率が大きく下降したことが本年度の特徴である。

分岐点別配水量等の状況表

(単位：m³、%)

分岐点	配水量	前年度比	有収水量	前年度比	有収率	19年度有収率	18年度有収率
徳佐田	2,233,584	99.9	2,159,618	98.8	96.69	97.79	96.68
安 室	1,091,589	107.1	1,000,019	102.5	91.61	95.78	94.34
内 間	967,431	96.5	923,398	97.5	95.45	94.45	93.34

合 計	4,292,604	100.8	4,083,035	99.3	95.12	96.53	95.33
-----	-----------	-------	-----------	------	-------	-------	-------

(6) 財務分析の状況

本年度の主な財務分析結果は次のとおりになっている。

- 1 職員一人当りの給水人口 ・ ・ ・ ・ ・ (給水人口 ÷ 職員数)
 $34,729 \text{人} / 9 \text{人} = 3,858 \text{人/人}$
給水人口は増加したが、職員は前年度と同じ人数だったため、3,858人
(前年度は3,850人)となっている。

- ② 職員一人当たり営業収益 ・ ・ ・ ・ ・ (営業収益 ÷ 職員数)
 $807,231 \text{千円} / 9 \text{人} = 89,692 \text{千円/人}$
営業収益が前年度より減少したためである。

- ③ 流動比率 ・ ・ ・ ・ ・ (流動資産 ÷ 流動負債) × 100
 $(1,011,642 \text{千円} / 51,617 \text{千円}) \times 100 = 1957\%$
流動負債項目である未払金が前年度163,369千円から本年度45,551千円に減少したことから、流動比率は大きく上昇している。
※流動比率の算出に当たっては、1年以内に償還すべき企業債の額51,835千円は流動負債の額に含まれていない。

- ④ 営業収支比率 ・ ・ ・ ・ ・ (営業収益 ÷ 営業費用) × 100
 $(807,231 \text{千円} / 722,144 \text{千円}) \times 100 = 111.78\%$
営業収益は、前年度より減少しているが、営業費用の減少の度合いがより大きいため前年度より上昇している。

- ⑤ 経常収支比率 ・ ・ ・ ・ ・ (経常収益 ÷ 経常費用) × 100
0
 $(808,204 \text{千円} / 752,693 \text{千円}) \times 100 = 107.38\%$
経常収益は前年度より減少しているが、経常費用の減少の度合いがより大きいため、前年度より上昇している。

- ⑥ 減価償却率
減価償却費が増加したことによる。

分析項目	20年度	19年度
職員一人当り給水人口	3,858人	3,850人
職員一人当り営業収益	89,692千円	90,910千円
流動比率	195.7%	60.6%
営業収支比率	111.78%	108.53%
経常収支比率	107.38%	103.38%
減価償却率	4.72%	4.01%

参考計表

【表 1】 給水人口等の状況

年度	行政人口	給水人口	前年度比	給水世帯数	前年度比	給水一世帯人口
16	33,840	33,829	101.0	12,051	101.8	2.81
17	34,031	34,023	100.6	12,211	101.3	2.79
18	34,298	34,291	100.8	12,416	101.7	2.76
19	34,662	34,650	101.0	12,680	102.1	2.73
20	34,740	34,729	100.2	12,874	101.5	2.69

【表 2】 営業収益等の状況

(単位 : 千円、%)

年度	営業収益	前年度比	左の内 給水収益	前年度比	供給単価(円)	給水原価(円)
16	806,816	94.5	800,297	95.2	196.08	197.11
17	814,165	100.9	802,735	100.3	195.59	196.08
18	801,790	98.5	790,926	98.5	194.61	192.76
19	818,186	102.0	798,508	101.0	194.33	192.78
20	807,231	98.7	794,051	99.4	194.48	184.35

【表 3】 配水量等の状況

(単位 : m³、 %)

年度	配水量	前年度比	一日平均配水量	有収水量	前年度比	有収率
16	4,290,664	95.9	11,755	4,081,469	96.0	95.12
17	4,342,003	101.2	11,896	4,104,224	100.6	94.52
18	4,263,185	98.2	11,680	4,064,139	99.0	95.33
19	4,256,993	99.5	11,631	4,109,120	101.1	96.53
20	4,292,604	100.8	11,761	4,083,035	99.4	95.12

※ 有収率 = 有収水量 ÷ 配水量

【表 4】 有収水量の用途使用状況

(単位 : m³、 %)

用途	家庭用		営業用		団体用		臨時
	数量	前年度比	数量	前年度比	数量	前年度比	数量
16	2,700,335	98.2	892,249	94.5	488,109	87.7	776
17	2,729,620	101.1	893,816	100.2	479,982	98.3	806
18	2,749,174	100.7	859,935	96.2	454,536	94.7	494
19	2,795,370	101.7	877,708	102.1	435,249	95.8	793
20	2,768,356	99.0	879,213	100.2	435,303	100.0	163